

ロシア 東欧 経済速報

社団法人 ロシア東欧貿易会 〒104-0033 東京都中央区新川1-2-12 金山ビル Tel.(03)3551-6218
ロシア東欧経済研究所 <http://www.rotobo.or.jp> [年間購読料・送料共前納 18,000円]

1999年(平成11年)9月25日 No. 1137

目次

経済危機1年後のロシア経済②.....	坂口 泉 1
旧ソ連・東欧貿易商況(8月分).....	8
CIS諸国通貨の最新為替レート.....	11

経済危機1年後のロシア経済②

(前号より続く)

(4) 今後の為替市場の動向についての一考察

現在はインフレ上昇率がルーブルの対ドルレートの下落率を明らかに上回っており、ルーブルがかなり強くなってきている。このため最近では、このままの状況が長期的に続くと、輸入品の競争力が再び高まり、国内産業復興の芽がつまれてしまうのではないかとの声が始めている。筆者には、ルーブルの対ドル・レートの適正水準がどのあたりにあるのか判断しかねるので、この点については何ともいえないが、急激なルーブル安はやはり望ましくないと思っている。急激にルーブル安が進めば、ただでさえ重い対外債務の重荷がさらに重くなり、ロシアは今よりも深刻な状態に陥るであろう。また、輸出志向型の企業やプロジェクトでない限り、外国から資金を導入することはますます困難になるであろう。さらには、ただでさえ低いルーブルへの信頼感がさらに弱まり、タンス預金や外国への資金逃避が加速されかねない。

恐らく、インフレ率、貿易の状況、国内産業の状況等を勘案しながら、(ルーブルは安定しているという印象を与えつつ)徐々にルーブル安に誘導していくというのが現時点で考えられる最良の選択肢のひとつなのだろう。ただ、少なくとも現時点のロシア経済の体力から判断して、中銀の厳しい外貨管理なしでは、この課題の達成は不可能であろう。IMFが教条的に自由化を強要するようなことがないよう祈念するのみである。

ただ、強力な外貨管理が継続されたとしても、上記の課題が達成されるという保証はない。S口座の残額や商業銀行が中銀のコルレス口座にプールしている資金額からもわかるとおり、潜在的なドル買い圧力は極めて高く、中銀や政府が少しでも操舵術を間違うと一挙にルーブル